

知の市場シリーズ
ち いち ば
知の市場

社会の現場を人を創る教育の現場に

総合社会教育研究会【編著】

A5 判・上製・416 頁・本体価格 4,500 円

ISBN 978-4-86345-286-2 C3337 2016 年 11 月末刊行予定

「知の市場」は、誰もが自由に行き交う自然道と似ている。人々の営みは教育そのものであり学校教育はそのささやかな一部である。現実から遊離した教育論議は空虚である。それぞれの社会の現場の知恵を講師として語り、受講者として聞き、互いに学び合うことこそ世界に通じる教育の原点であり本道である。

知の市場は、誰でもが自由に活用することができる真の教育のための社会基盤(インフラ)である。

【目次情報】

はじめに／序章：知の市場—全国，津々浦々，社会の現場を人を創る教育の現場に／第1部：知の市場の活動の軌跡、第1章 知の市場の趣旨と歴史・第2章 知の市場の教育と運営の方針と特徴・第3章 知の市場の実績と進化／第2部 知の市場を創った人々の思いと営み、第4章 未知の大海原に新天地を求めて船出した人たち・第5章 原野を開拓して井戸を掘った人たち・第6章 灌漑を引き日々水をやって育んだ人たち・第7章 新たな実りで多彩な広がりをもたらした人たち・第8章 再び海に漕ぎ出して地平を広げた人たち／おわりに



【編著者紹介】総合社会教育研究会（そうごうしゃかいきょういくけんきゅうかい）

何人も、貧困など自らの責に帰さない理由で、学ぶ機会を奪われ教える場を閉ざされてはならない。その思いを胸に、男女を問わず 16 歳から 90 歳まで、企業や官庁の経験者から消費者運動や市民運動の参画者まで、そして、弁護士や教員から労働者や学生院生まで、社会の広範にして多彩な人々が、何千何万人と知の市場に結集し、ボランティア活動を基本とする社会教育の基盤（インフラ）のために協働している。

目 次

はじめに	iii
序 章 知の市場	1
——全国、津々浦々、社会の現場を人を創る教育の現場に——	
第1節 概念と理念	2
第2節 歴史と実績	7
第1部 知の市場の活動の軌跡	
第1章 知の市場の趣旨と歴史	13
第1節 背景と意義	14
第1項 民主主義社会の特質と人々の選択	15
第1号 科学的方法論と情報化社会	16
第2号 プロフェッショナルと専門家	18
第2項 時代が求める新たな教養	20
第1号 社会を決する教養の水準	20
第2号 現代世界における教養	21
第3号 プロフェッショナルの育成と教養教育	23
第3項 欠かせない持続的な自己研鑽	24
第1号 自己研鑽の場としての社会の現場	24
第2号 学校教育と社会教育	25
第4項 知の市場の意義の拡大	27
第1号 基本的な意味と意義	28
第2号 加わる2つの意義と目指す2つの結合	29
第3号 意義の拡大と真の教育立国	30
第2節 知の市場の沿革	31
第0期：黎明期（～2003年度）	32

第Ⅰ期：形成期(2004年度～2008年度).....	32	第2号 要 領	58
第1号 化学・生物総合管理の再教育講座の開設	33	第3号 マニュアル	59
第2号 運営と教育の実績	34	(1)業務マニュアル 59 / (2)共通受講システム使用マニュアル	59 / (3)ホームページ更新用ワードプレス使用マニュアル 60
第3号 事業の継続を巡る異変と知の市場への原点回帰	34	第4号 様 式	60
第4号 切り拓いた自立への道	36	(1)開講準備 61 / (2)受講応募申込み 61 / (3)講義準備 61	
第5号 真の成果	37	/ (4)開講中 61 / (5)講義終了後 61 / (6)年次大会 62 /	
第Ⅱ期：展開期(2009年度～2012年度).....	37	(7)その他 62	
第Ⅲ期：完成期(2013年度～2014年度).....	39	第2項 ホームページの整備.....	62
第Ⅳ期：進化期(2015年度～).....	41	第1号 社会向け公開ページ	63
第2章 知の市場の教育と運営の方針と特徴	43	第2号 参画者用専用ページ	64
第1節 教育方針.....	44	第3項 共通受講システムの整備.....	64
第1項 総合的な学習機会の提供.....	45	第1号 開講機関による活用	65
第2項 現場に根ざした実践的な学習機会の提供.....	46	第2号 講師と連携機関による活用	65
第3項 十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択.....	47	第3号 応募者と受講者による活用	66
第4項 大学・大学院に準拠した厳しい成績評価.....	48	第3章 知の市場の実績と進化	67
第2節 運営方針.....	49	第1節 開講実績に見る進展.....	68
第1項 運営体制.....	50	第1項 開講拠点と開講機関と連携機関.....	68
第1号 活動を支える参画者	50	第2項 友の会と協力者・協力機関.....	70
第2号 参画者の役割	52	第3項 講 師.....	71
(1)開講機関 53 / (2)連携機関 53 / (3)知の市場事務局 53		第4項 開講科目.....	71
/ (4)有志学生実行委員会 54 / (5)友の会 54 / (6)連携学会		第1号 科目の分野構成	72
54 / (7)協力者・協力機関 54 / (8)協議会 55 / (9)評価委		第2号 プロフェッショナルの育成と教養教育の接合	73
員会 55		第3号 社会教育と学校教育の連結	73
第2項 共催講座と関連講座.....	55	第4号 知の市場の構成と科目の位置づけ	73
第1号 共催講座	55	第2節 受講実績に見る進展.....	75
第2号 関連講座	56	第1項 受講状況.....	75
第3節 連携と協働.....	56	第2項 応募者属性.....	76
第1項 規範の整備.....	57	第1号 年 齢	77
第1号 憲法と規定	57		

第2号 男 女	78
第3号 学 歴	78
第4号 地 域	78
第5号 職 業	79
第6号 所属組織の分野	80
第7号 受講者の多い組織	81
第8号 受講回数	83
第9号 情報源	84
第10号 受講動機	85
第3節 評価から見える課題	85
第1項 点検評価体制	85
第1号 協議会による自己点検評価	86
第2号 評価委員会による外部評価	87
第3号 年次大会による外部評価	87
第2項 点検評価結果	87
第1号 講師による受講者の評価結果	88
第2号 受講者による講師の評価結果	88
第3号 点検評価による奨励賞の授与	88
第3項 進化のための今後の課題	91
第1号 分野の拡大と連携機関の拡充	92
第2号 拠点の全国展開と開講機関の拡充	93
第3号 参画機関の機能の強化	93
第4号 内外の教育を巡る新たな動きとの連携	94
第5号 自立と協働による基盤の強化	94
第4節 知の市場の進化の行方	95

第2部 知の市場を創った人々の思いと営み

序 節 多彩な人々の広範な参画と自由な活動	99
第4章 未知の大海原に新天地を求めて船出した人たち	103
第1節 知の市場に歴史的な意義を見る(白井克彦)	104
第2節 異次元の世界との接触から多彩な社会を学ぶ(大久保明子)	107
第3節 知の市場の歴史に日本の来し方行く末を思う(樋口敬一)	110
第4節 講師として知の市場の意味を振り返る(岸田文雄)	114
第5節 草創期の活動の実情とその後の新たな展開に思う(中村幸一)	118
第6節 知の市場への共鳴を契機に新事業を志す(数瀬明美)	124
第7節 化学物質の自主管理の促進を目指す(福島麻子)	126
第8節 共に歩んだケミカルエンジニアと知の市場(溝口忠一)	129
第9節 草創期とともに駆け抜ける(大川秀郎)	134
第10節 知の市場の生き字引と呼ばれて思いを馳せる(山崎 徹)	137
第11節 リベラル・アーツを磨き教養を高め合う自由な研鑽の場を創る (栗谷しのぶ)	146
第12節 知の市場への思いと理念への共感(中島 幹)	150
第5章 原野を開拓して井戸を掘った人たち	157
第1節 感染症への対応と知の市場への参画(渡邊治雄)	158
第2節 講座の開設と運営に参画して知の市場の礎を築く(高橋俊彦)	165
第3節 担った事務局の役割に思いを馳せる(阿南忠明)	169
第4節 化学物質総合管理にかかわった40余年を振り返る(星川欣孝)	174
第5節 生物学と農業の接点を探る(田部井 豊)	178
第6節 止 ^{したに} の谷を巡るリチウムイオン二次電池の秘話(西 美緒)	194
第6章 灌漑を引き日々水をやって育んだ人たち	215
第1節 互学互教により思索を深めた知の市場との協働(須藤 繁)	216
第2節 異なる世界に住んだ2年間を振り返る(奥田有香)	230
第3節 知の市場へ参加して仕事の意味を問い直す(野口舞子)	234

xii 目 次

第4節	教育活動に挑戦するプロフェッショナル集団(中尾 眞・山崎 徹) …	238
第5節	知への意欲の交換(栗原 脩) ……………	244
第6節	知の市場に触れて現地現物と自主行動の重要性を再認識(榎 尚史) …	247
第7節	紆余曲折し変転万化した歩みを振り返る(保利 一) ……………	249
第8節	知の市場とともに一歩一歩、歩む(林 浩次) ……………	263
第9節	リチウムイオン二次電池を通して福島と日本の復活に向けて 人財育成に挑む(庄司秀樹) ……………	265
第7章	新たな実りで多彩な広がりをもたらした人たち ……………	279
第1節	楽しく艱難辛苦の連鎖を乗り越える(安部八洲男) ……………	280
第2節	プロフェッショナルの育成に人生の思いを託す(下條佑一) ……………	289
第3節	化学物質リスク評価から見る日本の人材育成の惨状(花井荘輔) ……	297
第4節	知の市場によるサイエンスコミュニケーションの社会への実装 (高安礼士) ……………	311
第5節	リスク低減6則を生み出した知の市場(長田 敏) ……………	325
第8章	再び海に漕ぎ出して地平を広げた人たち ……………	337
第1節	視野を広げ知の市場に思いを託す(津田洋幸) ……………	338
第2節	先導者として動物臨床医学研究所が歩んできた道(山根義久) ……	342
第3節	波乱に満ちた新規活動の展開(宮崎隆介) ……………	350
第4節	狭山地域が先導する知の市場の進化(栗原博文) ……………	360
第5節	将来に向かって知の市場の意味と価値を再考する(今給黎佳菜) ……	380
おわりに	……………	393
索引	……………	397